

細かい調整を嫌う傾向

デフォルトという言葉を知っているだろうか。

初期設定というよつな意味だが、電気製品などを購入したときに、あらかじめ設定されている条件をデフォルトという。パソコンや携帯電話が典型だが、実に様々なオプション設定があり、それを一つひとつ調整していくとなると大変な作業になる。商品や技術に詳しくない人にとっては、ほとんど不可能な作業である。

そうした不便をかけないよう、多くの電気製品は一般の人にとってもっとも使いやすいよつな

伊藤 元重

機構開発研究所 教授
東大 教授
研究 主任
総合 理事

設定に調整してある。説明書を見ていちいち調整をしなくても、すぐに商品が使えるのだ。多くの消費者は、デフォルトのまま、その商品を利用することが多い。

デフォルトで標準的な設定がしてあるのは、利用者にとっては、

便利ではあるが、問題もないわけではない。自分にあつた設定に調

もある。米国などでよくある広告だが、「この雑誌を最初の月号だけに無料でお届けします。必要な消費者は、契約をキャンセルしてもらえば、料金は掛かりません」といふものを見かける。

現実には、いったん雑誌の購読の手続きをとってしまったと、今度は購読を止めた方がいいと思つて

デフォルトの壁打ち破れるか

整するのが望ましいとしても、現実にはそうした調整が煩わしく思える。だから必要性を感じてはいなくても、デフォルトから設定を変更しないままにいる人も多い。

一般に、人々は細かい調整をすることを嫌う傾向がある。この癖をついて、姑息な商売をする企業

も、つい購読を続けてしまつ人が非常に多いという。よつするに購読停止の手続きをするのが煩わしく、先延ばしにしてしまふのだ。

人間はいつたん決めた行動を変えざるを嫌う傾向がある、という行動経済学の基本的な現象である。こうした視点から、いま政府が

進めようとする少額投資制度(NISA)について考えてみると面白い。いまあちこちの金融機関が宣伝しているのが「存じの読者も多いだろうが、1年100万円、5年間、株式や投資信託のよつなリスク資産に投資する人に、無税の特権を与えようとする制度だ。政府は、こうした制度を導入することで、国民に、預貯金だけに偏らないで、もう少しリスクのある、そのかわり収益率の高い資産の運用をしてもらいたい」という狙いをもっている。

資産運用新制度に注目

よく知られているよつに、日本国民は、他の国の国民に比べて、極端に預貯金に偏つた資産運用をしている。少しは投資信託に回し

た方がよいと思つている人は多くても、なかなかよつした行動を起こすのは面倒だ、と考える人が多い。

給与や年金などの振込は、預貯金を通して行われる。つまり何もなければ、国民の貯蓄の多くは預貯金にたまっていくことになる。別のいい方をすれば、預貯金で貯蓄をするというのが、日本国民にとつての資産運用のデフォルトであるのだ。

国民全体の視点から言えば、もう少し投資信託などに資金を移した方がよい。ただ、よつした行動を国民に起こしてもよつことは大変なことである。デフォルトの壁は大きい。NISAの制度がよつした壁を打ち破るのか注目してみたい。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。